

法相宗大本山興福寺 寺務老院(前貫首) ^{た がわしゅんえい} 多川俊映大僧正



昭和22年3月奈良市に生まれる。昭和44年立命館大学文学部卒業。

平成元年9月興福寺貫首就任。

1996年パリ市グランパレ美術館での「日本仏教美術の宝庫奈良興福寺展」に48件122点の寺宝を出陳。15万人が参観し日仏文化交流に資する。

1997年(平成9年)重要文化財 南円堂平成大修理落慶法要を厳修。その翌年から境内整備に着手し、<天平の文化空間の再構成><中金堂再建造営>など伽藍の復興に取り組み、2018年10月7日中金堂落慶法要を営んだ。

その一方、唯識や仏教文化論をベースに、執筆・講演活動を行い、現代社会にわかりやすく仏教を説く。

学校法人帝塚山学院大学特別客員教授、独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館評議員等。主な著書：『唯識入門』(春秋社)平成25年、『心を豊かにする菜根譚33語』(祥伝社黄金文庫)平成25年、『唯識とはなにか』(角川ソフィア文庫)平成27年、他多数。

興福寺の「国宝」から 「阿修羅像」

【制作時代】奈良時代

【安置場所】国宝館

乾漆造 彩色 奈良時代

像高153.4cm



梵語(ぼんご)(古代インド語)のアスラ(Asura)の音写で「生命(asu)を与える(ra)者」とされ、また「非(a)天(sura)」にも解釈され、まったく性格の異なる神になります。ペルシャなどでは大地にめぐみを与える太陽神として信仰されてきましたが、インドでは熱さを招き大地を干上がらせる太陽神として、常にインドラ(帝釈天)と戦う悪の戦闘神になります。仏教に取り入れられてからは、釈迦を守護する神と説かれるようになります。

像は三面六臂(さんめんろっぴ)、上半身裸で条帛(じょうはく)と天衣(てんね)をかけ、胸飾りと臂釧(ひせん)や腕釧(わんせん)をつけ、裳(も)をまとい、板金剛(いたこんごう)をはいています。

(興福寺ホームページより転載)